

令和 6 年度第 3 回 高山市子どもにやさしいまちづくり推進委員会 会議録

日 時	令和 7 年 3 月 3 日（月）10 時 00 分～11 時 30 分
場 所	市役所 2 階 201・202 会議室
出席者	委員 出席 13 名、欠席 7 名、事務局 9 名
開会	進行：直井係長
あいさつ	瓜田こども未来部長
1. 議題	進行：草場委員長
事務局説明	こども計画について 説明：前田こども政策課長より（25 分） 資料により説明
〔発言者〕 委員	〔意見・要旨〕 読みやすい計画に思えた。 通学区域に関わらず就学できる「特認校制」の導入を進めるとあるが、具体的な内容は。
こども政策課長	新たに整備している荘川の義務教育学校「さくら学園」について、どの区域からも通える学校にしようとするもので、例えば南小学校や北小学校などの通学区域を無くすといったものではない。
委員	「にじ色」も特認校なのか。
こども政策課長	「にじ色」は学びの多様化教室という区分で、宮中学校の分校であり転校する形になるので異なる。
委員	のらマイカーなどが多く停車する市役所の近くの西小学校内に、不登校のこどもなどの居場所として通学区域に関わらず就学できる特認校ができると、通いやすくて良いのではと思う。 こども未来計画ではひらがなに鍵カッコの「まち」「ひと」の言葉が使われており、良いと感じた。一方で、総合計画では「しあわせ」は鍵カッコだが、まち、人はそうではないため、大事にしている部分が弱まるように感じた。 最後にビッグアリーナの空調整備は本当にありがたいと思う。過去に中学校の種目部長をしており、高山で県大会を開催していたが、今は

	空調がないため、夏場の開催ができなくなってしまった。まずは設計とのことだが、できるだけ早く進めてもらいたい。
市民活動部長	大会開催には、空調設備の有ることが条件となっている種目も増えている。令和7年度に設計、令和8年度に工事で進める予定である。
委員	保育園の保護者会や各園の代表者で集まった場での意見について、3点伝えたい。 1点目は、市民プールや赤保木公園、原山市民公園などの整備が進んでおり、非常にありがたい。ただし、そういった施設を利用するのは小さい子どもが多く、自身が若い頃から変わらないが、高山市は中高生が遊ぶ場所が限られている。ファミレスなどは中心部から離れたところにあり、もっと中高生が楽しめる場所が身近に有れば良いと思う。
こども政策課長	私たちも中高生から、自分達も楽しめるような遊び場がほしいといった意見を多く聞いている。大都市のような民間施設は人口規模により難しいかもしれないが、例えば村半を整備したほか、図書館も中高生に使いやすくなるよう工夫している。今ある施設をより使いやすくしていく取組みを進めながら、今後も若い世代のニーズに対応していく必要があると感じている。
市民活動部長	体育施設・文化施設については条例改正を進め、販売やイベントなど様々な利用や、目的に応じて様々な場所にするのできる環境を整えている。図書館は本を借りるだけでなく、皆が集まって楽しめる場所にしようと、開放スペースを設けたり、BGMを流すなどの取組みを進めている。位山交流広場はエア遊具や図書コーナー、シアターなどを設置し、保育園児などの利用はかなり増えてきているが、もう少し大きい子どもが遊べる場もあると良いとの声も踏まえ、来年度に向けて対応を考えている。その他、空き店舗などを利用して販売したり、活動できるような取組みも始まっており、若い世代にも参加してもらえよう進めたい。
委員	2点目は、先程もあった通学区域の話で、来年度三枝小学校へ入学する小学生は10人の予定であり、昔と比べて大きく減少している。四十九院橋の冬頭町側は北小学校の区域となり、三枝小学校であれば数分で通えるのに、40～50分かけて北小学校に通わなければならない。学校区の再編はかなり難しいと聴いているが、対応してもらえると助かる子どもや保護者が多いと思う。
こども政策課長	町内会との兼ね合いなど様々な問題があり難しいが、検討課題として

委員	は上がっているため、今後議論が進んでいくものと思っている。意見については教育委員会事務局へも共有させてもらう。
医療保健部長	3点目は、こどもが急に熱を出したりした時に、予約ができず、小児科で診療を受けるのにとっても時間がかかり困っている。人口に対して市内の小児科の数が十分なのか分からないが、小児科が少ないとの話はよく出るので状況について確認したい。
委員	市内では主に2つの小児科医院が専門に診療を行っているが、混雑していることや、医師の高齢化もあり市民からは将来が心配といった話を聞いている。その他、市内にはファミリークリニックや国保診療所などこどもが受診できる医院が10か所程あることから、問い合わせがあった際には紹介している。 医師が高齢化するなかで、地域医療をどう守っていくかは大きな課題と捉えており、小児科に限らず、皮膚科なども含めて、今後の対応を検討していきたい。
市民活動部長	こども達が使いやすいように図書館や村半を運営していることは素晴らしいと思った。特に小中学生が図書館や村半、大政などではこんな使い方ができると発信することにより、一層の利用につながるのではと感じた。 こどもを生み育てる世代の減少が大きな課題とされているが、親になる世代が増えないと、こどもも増えないのはそのとおりとを感じるため、多くの若者に高山市に住んでもらう方向で取組むことは本当に良いことと思う。 市外で働く地元の友人からは、給料が良いといったことだけでなく、都市部に住むことがステータスとなっているといった話をよく聞くため、飛騨高山に住むことがあこがれとなるようなイメージ戦略を進めることが若者の増加には重要と思う。
委員	市外に出ている大学生などにUターンを考えてもらえるように、二十歳のつどいに市内事業所の紹介ブースを設置するなど、企業とタイアップした取組みを行っている。 若者が提案した様々な事業を市が支援する取組みを一昨年から始め多くの応募があるなど、若者が誇りや愛着を持てるまちづくりを進めている。 情報発信については、直近では図書館のホームページをより見やすい内容へとリニューアルしたが、今後も様々な進めていきたい。

	難しいと感じており、横の繋がりの強化が大切と考えている。例えば、こどもの病気で親が仕事を休んだ際に同僚の目を気にするといったこともあるため、休みやすい職場環境を市全体で作っていくことが大切である。 その他、近所の方やこどもの友達の両親など、こどもが自分の親以外の頼れる存在を増やすことなどにより、市全体でこどもを育てる空気感になっていけば良いと思う。
こども政策課長	委員の言われるとおり、こどもを生み育てる年代の若者が楽しく、幸せを実感できるようなまちづくりが、この計画の実現のための重要なポイントと思っている。移住については、高山市だからこその魅力を伸ばし、求める層にいかにつけるかが大事と思っている。例えば多くの観光客が訪れたり、食や気候などを含む安全安心、余暇の過ごし方などが差別化が図られる当市の魅力と思うため、十分意識した取り組みの展開が必要と考える。 高山青年会議所では、来年度は70周年に当たるということで、「共育て」をテーマに活動されると聞いている。「共育て」はなかなか聞き覚えがない言葉かもしれないが、国のこども未来戦略では3本柱の1つとして使われている。「共働き」は定着してきた一方で、「共育て」はなかなか進んでいないといった認識のもとで、男女の差なく夫婦が一緒に子育てを担うといった意味や、市の「こども未来計画」に示すようにまちぐるみでこどもを育てることで、皆の幸せにつなげるといった意味にも受け取れると思っている。皆が幸せを実感できるようなまちの実現に向けて、行政も一緒になって取り組んでいきたい。
委員	評価指標 KPI では%表記の目標値が多いが、どのような考えで設定したのか。
こども政策課長	%表記のものの多くは、総合計画に基づき毎年まちづくりアンケートで調査している指標である。今回は、どれだけ行ったかというアウトプット（活動指標）ではなく、どのように社会が良くなったかというアウトカム（成果指標）を重視したため、%表記の成果指標を多く採用している。
委員	市民プールや原山市民公園など整備してもらいとても嬉しいが、親の送迎がないと行けない人が多いと感じている。私はこどもにも良い経験になるため、行き方を調べて可能な場合は路線バスを利用しているが、接続が悪いなど利用できないことも多い。車の送迎がなくても行きやすいように公共交通の充実を検討してもらえるとありがたい。

こども政策課長	日本一広い市域に散らばって人が住んでいるため、移動については、経済性も含めて課題が大きい地域と認識している。若いころから公共交通に慣れ親しんでもらえるよう、高校生以下は料金を無料にするなどの取組みを進めているが、自動運転などの技術革新も踏まえ、引き続き様々な検討が必要と思っている。
委員	若者が学校以外の様々な居場所づくり、例えば高校生はMAPの開催などに取組んでいるが、そういった活動への支援は考えているか。
こども政策課長	こどもの居場所づくりについては新たな支援制度を開始するほか、朝日地域では店舗跡地を利用した多世代による居場所づくりの取組みが進められており、市内全域で様々な取組みが活性化すると良いと思う。高校生主催のMAPについても、新たな支援制度を開始するなど、若者による活動の活性化を進めている。
委員	児童センターなどの屋内型遊び場の利用者数の目標値を定めているが、児童センターではどの地区の何歳のこどもが利用したかなどの統計を取っているか。先程の話題にあった移動の課題分析に活用できるのではと考える。
こども政策課長	児童センターは入室時に学校や学年などの利用者情報を記入してもらっているため、分析していきたい。
委員	別冊にある産後ケア事業の量の見込みについては、出生数が減るなかで横ばいとなっているが、どのような方法で算出したのか。
こども家庭センター長	国で定められた計算ルールにより算出している。妊婦は減るなかでも、サービスを利用する方の割合の増加を見込んだもの。
委員	5歳児健診の対象は、市内の全ての年中児なのか。
こども家庭センター長	全ての年中児を対象とし、保護者にも参加してもらい実施する予定である。
委員	不登校児童生徒が増えているなか、移動であい塾や「にじ色」などに取組んでもらいありがたい。各学校の校内教育支援センターに配置された学習指導員については3時間の勤務となっているが、児童生徒は一日6時間程度学校で過ごすため、十分な対応ができていない。今後、勤務時間の拡充などを検討してほしい。

こども政策課長	教育委員会事務局へもいただいた意見を共有させてもらう。
委員	先程の学校区の問題は昔から言われており、様々な意見があり、一朝一夕には解決できない問題と思っている。 私もかつて青年会議所に所属していたが、今回話を聞かせてもらい、今の若い企業人も真剣にまちづくりについて考えていると感じた。 こどもを育てる親のことを考えると、学校教育と同じように、家庭教育も重要と思う。 計画策定の際には様々な意見があるが、取組みを好評価する意見も大事と思っており、例えば今年度の市民プールのオープンに際しての利用状況を踏まえた迅速な更衣室の増設は素晴らしい対応だった。
こども未来部長	家庭教育についてはこれまでも力を入れて取組んできたが、今年度策定する教育振興基本計画においては柱の一つとして新たに位置づけ、全庁的に進めることとしている。
市民活動部長	家庭教育については、教育振興基本計画において、従前は生涯学習の一分野としていたものを、学校教育と並ぶよう格上げしたところである。 こどもによる主体的な活動のサポートについては、防災をテーマにこどもが大人に提案するまちづくり協議会の取組み、市内高校を中心とした、市民文化会館における若者の発表、高校生が主催するMAPに対する市の新たな支援などに取組んでいる。
委員	私の所属するまちづくり協議会の地域でも、こどもが急激に減少しているなかで、こどもに対する様々な取組みを強化している。 情報発信については、通常の見学の他、LINEによる直接の連絡や学校を通じた案内などにより、漏れなく伝わるように工夫している。 高校生も参加する会議を開催し、より良いまちづくりに向けて意見を取り入れている。 同じ町内でも南小学校と新宮小学校へ分かれる地域があり、昔から学区の見直しは話題となるが、保護者の意見も様々ななかで、見直しは難しいと教育委員会からは話があった。 皆さんも各地域のまちづくり協議会に意見を出すなど、一緒に地域活性化に取り組んでもらいたい。
委員	今年度、市で条例改正が行われ、市民文化会館などがとても使いやすくなっている。文化会館では、高校生が勉強や電車を待ったりして過ごせる場所が準備されており、居場所の一つとして利用が広がると良い。

